かしこく　やさしく　たくましく　　国際感覚を身に付け、確かな学力と人間性を備えた児童生徒の育成

めざせ！南十字星

笑顔があふれ、しあわせを感じられる学校

学 校 便 り
令和８年１月号
ヨハネスブルグ日本人学校

３学期始業にあたって　海外で学ぶ意義を踏まえて

新しい年を迎え、３学期が始まりました。保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年の干支は「午（うま）」です。馬は古くから人と共に歩み、遠い道のりを進んできた動物です。その姿は南アでのどかな風景としてもよく見かけます。速く走る姿が注目されがちですが、実は馬の真価は、環境の変化に適応しながら、仲間や人と呼吸を合わせ、着実に前へ進む力にあります。この姿は、南アフリカで学ぶ本校の子どもたちの姿と重なるように感じられます。

異なる文化、言語、価値観が交差する南アフリカという地で学ぶことは、決して当たり前の経験ではありません。日常生活の中で、日本とは異なる習慣に戸惑ったり、思うように伝わらないもどかしさを感じたりすることもあるでしょう。しかし、その一つひとつの経験が、子どもたちの視野を広げ、物事を多面的に考える力を育てています。

３学期は、１年間の学びを振り返り、次の学年、次のステージへとつなげる大切な学期です。海外での学校生活は、「正解が一つではない場面」に数多く出会います。その中で、自分の考えをもち、相手の考えを尊重し、最適な答えを探そうとする姿勢こそが、これからの社会で求められる力です。午年の馬のように、状況を見極めながら、ぶれることなく前へ進む力が、ここでの学びによって培われています。

また、本校の子どもたちは、学年や国籍、背景の異なる人々と日常的に関わりながら生活しています。人と協力する力、違いを認め合う心、困難な状況でも投げ出さずに考え続ける姿勢は、教室の中だけではなく、この地で生活する中で自然と育まれています。これは、海外で学ぶからこそ得られる大きな財産です。３学期は短い学期ですが、一日一日の積み重ねが、子どもたちの将来を支える確かな力となります。これまでの自分を振り返り、「できるようになったこと」を自信に変え、「これから挑戦したいこと」を見つけてほしいと思います。

本年も教職員一同、南アフリカという恵まれた、そして挑戦に満ちた環境の中で、子どもたちが安心して学び、たくましく成長できるよう努めてまいります。午年にちなみ、「しなやかに、前向きに、そして着実に」歩みを進める一年となることを願っています。

以下、本日の終業式で子供たちに話した内容をお伝えします。お時間おありの際、ご一読いただきますよう、お願いいたします。

みなさん、おはようございます。

今日から、いよいよ３学期が始まります。冬休みはどのように過ごしましたか。家族とゆっくり過ごした人、旅行に出かけた人、たくさん本を読んだ人もいるでしょう。こうして再び元気な姿でみなさんと会えることをとてもうれしく思います。

３学期は、１年間の学びのまとめの学期です。これまで積み重ねてきた学習や経験を、自分の力としてしっかり形にする大切な時間でもあります。特に、学年の終わりを迎えるみなさんにとっては、「次の学年へ進む準備の学期」でもあります。

今日は、「振り返る力」と「次につなげる力」についてお話しします。
人は前に進むとき、ただ急ぐだけでは本当の成長はできません。ときには立ち止まり、
「自分は何ができるようになったのか」「何がまだ難しいのか」を振り返ることが大切です。
２学期までの自分を思い出してみてください。できるようになったこと、がんばったこと、そして思うようにいかなかったこともあったはずです。その一つひとつが、みなさんの大切な財産です。

大事なのは、「失敗しないこと」ではありません。「失敗から学ぶこと」です。思うようにいかなかった経験があるからこそ、人は考え、工夫し、次に生かすことができます。この南アフリカという多様な文化や価値観の中で学んでいるみなさんには、まさにその力が育っています。

３学期は短い学期ですが、とても中身の濃い時間です。一日一日を大切にし、「今日は何を学んだか」「明日は何に挑戦するか」を意識して過ごしてください。先生たちは、みなさん一人ひとりが自信をもって次のステージへ進めるよう、全力で支えます。

さあ、新しい学期のスタートです。

「自分はまだ伸びる」「まだできることがある」その気持ちを胸に、３学期を力強く歩んでいきましょう。